



平成29年2月17日  
**歯学教育認証評価事業  
 「事業成果報告会」**  
 —東京医科歯科大学—

東京医科歯科大学 統合教育機構  
 鶴田 潤

東京医科歯科大学歯学部  
 自己点検・評価委員会



## 受審大学教職員として

I・今回のトライアル大学認証評価全体の問題点・苦労した点と改善すべき点

### 1・対象期間 (改善)

(事務担当)

今回の評価は、一定期間での評価サイクルの前提がない単発の評価であったため、過去、何年間のデータを対象とするかの指示があれば、資料準備に際し、よりスムーズな対応が可能であった。

> ○年間の指示の設定

### 2・用語の理解 (改善)

(教員・事務担当)

評価書類に用いる専門用語について、評価者側との共通理解が必要とされた。今回は、受審大学教職員としては、高等教育に関する質保証関係用語集を手元に、書類作成を行った。

> 基本用語の共通理解のための用語集の準備

大学改革支援・学位授与機構HPより  
[http://www.niad.ac.jp/n\\_shuppan/pack](http://www.niad.ac.jp/n_shuppan/pack)



### 3・大学内教職員の理解の促進 (改善)

(教員・事務担当)

取り組み説明において、「ハンドブック」的な資料があると、多数の教職員はじめ、協力学生・研修医などへのより深い理解を促すことが可能であったと感じる。

> 取り組みについての一般向けのわかりやすい資料の準備  
 ハンドブックやホームページ  
 (基準・観点よりも、実質的な記載内容・項目の説明)

### 4・得られた評価の活用のための基準 (提案)

(鶴田)

現在の評価は、自己点検・評価に対する相対的な「評価」であるが、学士(歯学)課程に関する基準があると、到達度に対する自己評価の際に、より客観的な評価を実施しやすくなると感じた。

> 基準の準備

## 受審大学教職員として

II・受審してみて感じた認証評価の利点

### 1・PDCAサイクルの促進

学士(歯学)課程のカリキュラム改善などの改善取り組みに関するPDCAサイクルについて、圧倒的な促進力となっていると感じた。

(反面)

機関別評価・法人評価・病院機能評価などの第三者評価による利点  
 <>  
 毎年評価?・評価機関間での調整(時期・内容・定型)も必要?

## Ⅱ・受審してみて感じた認証評価の利点

### 2・学内での改善点の共有

#### 【改善を必要とする点】

基準7項目中、2項目でのご指摘

- 1) 基準4 患者への配慮と臨床能力の確保
- 2) 基準6 教員組織

以上